町民と結ぶ架け橋　　No.65　平成30年９月１日
教育委員会だより

えりもしゃくなげ

発行者　教育長　川上松美　㈹01466-2-2525

学力向上で学校教育と社会教育が接続

学力向上は、教育水準維持のため、学校が果たすべき責務です。そのため、えりも町では、補充・深化を図る取組として、学校教育では夏休み期間の「学習サポート」、社会教育では「スキルアップスクール」（教育委員会と市街地青少年育成協会の共催）を行いました。学校と社会教育の接続した取組として深まってきています。

○各学校が夏休み学習サポート

・笛舞小　　８月８、９日
・えりも小　　７月 26・27・30 日、８月３日
・東洋小　　７月 23・24 日、８月 16 日
・えりも岬小　７月 24・25・26 日
・庶野小　　７月 26・27・30 日
・えりも中　　部活動１時間前（１・２年）
　　７月 23 日～31 日（３年）
・えりも高校　７月 26・27・30・31 日

○社会教育係がスキルアップスクール

・福祉センター　７月 28・29 日

○この取組は、地元出身の大学生、えりも高校生が参画して役割を果たすなど、確実に学校と社会教育の連携を図る取組として定着してきています。

えり小では、先生や高校生ボランティアからアドバイスを受けました

岬小では、学習室で先生とみんなが学習に取り組みました

東洋小では、マンツーマンでアドバイスを受けて取り組みました

庶小では、１年から４年までと、5･6 年が分かれて工夫した取組が行われました

笛小では、学年ごとに苦手な分野を自らが考え見直しを行いました

○学校から社会教育へバトンタッチ○

えり高２年の渋田侑奈さんがアドバイス

北海学園大２年の中村大器君がアドバイス

えり高３年の岩舘朱音さんがアドバイス

○１日目のスキルアップ（国語・漢字）を終えて、一人一人に修了書が手渡されました。
○その他に、東京オリンピック・パラリンピックに向けた作品、ワークショップで「世界一大きな絵」を作成しました。

いじめ問題は、過去も今もあることですが、最近はその問題が深刻化する傾向にあります。そこで、えりも町では小中高が一致して、次のような取組を行い、未然防止に努めています。今後も一層、各家庭、地域の理解と協力、そして役割を果たす姿勢が重要です。

○６月にいじめ調査を行い、「４月からいじめられたことがある」と回答した児童生徒の事実確認を行い、認知の有無にかかわらず、教育委員会にも報告を求め、いじめの対応に、学校と行政が共有を図り進めています。
○町生徒指導連絡協議会では、小中高の児童生徒全員がいじめ標語、ネットトラブル標語を募集し、いじめ撲滅のための取組を行っています。
○各学校では、いじめを調査するだけでなく、日常観察や教職員の情報交換を通して、日常的な発見に心がけています。
○授業では、「特別な教科　道徳」で思いやりや他を尊重する心を育むよう学習しています。

○７月13日、えりも高校学校祭の開会式後に　中高生徒会によって、いじめ撲滅宣言が提案され、高校生全員で誓い合いました。

庶野小で「一日防災地域学校」実施

○地域の方から 3.11 東日本大震災での庶野地区の話を聞く、まさに、地域と学校が結び付いた「地域学校」の活動の一つです。
○６月22日、庶野小学校では全校児童が命の大切さについて防災教室を通して学びました。
○考えてみると、東日本大震災は７年前ですから、６年生も生まれた頃になります。その意味でもとても大切な学習でありました。先生方が作成したビデオで当時の様子や被害の状況を知りました。

○小学１年生もまだ生まれていないとき。６年生も入学当時の平成 23 年の東日本大震災について全校児童が学びました。
○児童は映像を見て、その恐ろしさを感じるとともに、庶野でもあった津波の恐ろしさを地域の方から聞くなど、今年の訓練は一層、実のあるものとなりました。
○教職員で反省が行われ、もっと地域との連携を図ることや保護者への引き渡しなどの課題を掘り起しました。

庶野小の避難は、学校横の山を駆け上るしかありません。これまで、地域の人や学校で整備した避難道を児童は必死に登りました。

小高い丘まで登った児童は、庶野稲荷神社の避難場所に集まり、非常食の体験や保護者への引き渡などの訓練が行われました。